

文部科学省平成 17 年度
「大学・大学院における教員養成推進プログラム」選定教育プロジェクト
(平成 17・18 年度事業)

広域大学間連携による高度な教員研修の構築

「教育の今日的課題」解決に向けた新研修システムの実現

1. はじめに

千葉大学教育学部は、文部科学省の事業「大学・大学院における教員養成推進プログラム」(通称「**教員養成GP**」)において、2つのプロジェクトが採択されました。

ここで紹介するのは、7つの大学が連携した共同プロジェクトです。その大学とは、**千葉大学**以外に、国立の5大学(**宮城教育大学**、**茨城大学**、**筑波大学**、**東京学芸大学**、**大阪教育大学**)、私立の1大学(**玉川大学**)です。更に独立行政法人**教員研修センター**が連携しています。

これら7大学と1センターとが連携して、**広域大学間教員養成・研修コンソーシアム**を組織して、小中学校が抱える今日的課題の解決を目指した高度な教員研修を実施するとともに、研修システムのあり方を探っていこう、というプロジェクトです。

なお、本プロジェクト全体の責任大学は筑波大学です。全体構成については、筑波大学のホームページ(<http://www.tsukuba.ac.jp/campus/monbukagakusyo.html>)をご覧ください。

2. 千葉大学教育学部の事業

千葉大学は、**連携講座「学校における実践的研究法(アクションリサーチ)」**という研修講座の責任大学になっています。つまり、次のことを実施します。なおこれらは、千葉県教育委員会と千葉市教育委員会の多大なるご協力によって実施されるものです。

- [1] 「学校における実践的研究法(アクションリサーチ)」の実施**
(研究主任等を対象として、平成 17、18 年度に各一回、計二回実施)
- [2] 小中学校が抱えている教育課題とそれを解決するための方法(研究方法を含む)に関する調査研究の実施**
- [3] 成果報告書の作成**
[1][2]の成果をまとめ、学内教員、コンソーシアム構成大学、教育委員会等に配布することにより、研修講座の改善、大学・大学院におけるカリキュラム構成やカリキュラム内容の改善のために情報を提供する。

3.平成17年度に実施した事業

[1]連携講座 「学校における実践的研究法(アクションリサーチ)」を実施

主催：広域大学間教員養成・研修コンソーシアム

実施責任大学：千葉大学

テ ー マ	学校における実践的研究法 (アクションリサーチ)	実施期間	平成17年12月10・11・17日
目 的	<p>各教師、各学校が、それぞれの教育課題を解決するために研究的実践・実践的研究を行う意欲と力量を育成し、向上し続ける教師、向上し続ける学校の形成を目指す。</p> <p>いわゆる「科学的・実験的」研究とアクションリサーチとの差異を認識し、教師個人が学級や教科で、あるいは学校全体で取り組む際の留意点等の理解を図る。</p>		
受講対象者	各学校の研究主任、教科主任 など	募集人員	50名
実施会場	千葉大学教育学部	所在地	千葉市稲毛区弥生町1-33

<講座内容>

区分	日 程	テ ー マ と 担 当 講 師	研 修 方 法
第1日	12月10日(土) 12:30~14:30	アクションリサーチの勧め - 反省的実践者としての教師のために - 東京学芸大学教授 浅沼 茂	講義・演習
	14:45~16:45	学習活動の改善を目指したアクションリサーチ - 発信をめざす英語活動・英語の事例 - 千葉大学教授 大井 恭子	講義・演習
第2日	12月11日(日) 9:15~11:15	指導法の改善を目指したアクションリサーチ - 道徳の事例を中心に - 千葉大学助教授 土田 雄一	講義・演習
	12:15~14:15	教材改善・開発を目指したアクションリサーチ - 国語の事例 - 千葉大学教授 佐藤 宗子	講義・演習
	14:30~16:30	授業実践研究としてのアクションリサーチの方法 千葉大学教授 伏見 陽児	講義・演習
第3日	年12月17日(土) 12:30~14:30	アクションリサーチによる学校臨床研究 - 不登校児を対象として - 千葉大学教授 保坂 亨	講義・演習
	14:45~16:45	アクションリサーチの実際と課題 - 中学校における校内研修の取組み - 筑波大学大学院教授 大高 泉	講義・演習

[2] 調査研究について

千葉県長期研修生の研究報告のデータベース化

千葉県教育委員会では、毎年 60～70 名を、千葉大学教育学部や千葉県総合教育センター等に、一年間にわたって長期研修生として派遣している。長期研修生の研究 200 件余を、学校現場が抱えている課題と捉え、そのテーマ、研究方法等をデータベース化した。

平成 14 年～16 年の三年間を対象とした。

平成 18 年度には、このデータベースを基にして今日学校が抱える課題とそれらを解決するための研究方法等の特色を分析する。

理科教育研究に関するデータベースの作成とその特色に関する分析

事例として理科を取り上げ、千葉県長期研修生の研究報告及び千葉県教職員組合・教研集会における研究報告について、過去 20 年間分を と同様にデータベース化するとともに、それらの特色を分析した。そのポイントについては、別に報告する。

[3] 教員養成への波及効果について

千葉大学教育学部においては、現在、大学院改革特別委員会並びに学部改革特別委員会とが組織され活動しているが、教員養成カリキュラムに一層実践的色彩を持たせようという動きになっている。とりわけ大学院においては、アクションリサーチ的な授業科目を位置づけようとの案が出ている。

学校現場における今日の課題が鮮明になれば、それらが更に教員養成の改革に対して、価値ある情報を提供することになるであろう。

4 . 平成 18 年度に実施予定の事業

[1] 連携講座 「学校における実践的研究法（アクションリサーチ）」の実施

主催：広域大学間教員養成・研修コンソーシアム

実施責任大学：千 葉 大 学

テ ー マ	学校における実践的研究法 (アクションリサーチ)	実施期間	平成 18 年 8 月 21・22・23 日
目 的	各教師、各学校が、それぞれの教育課題を解決するために研究的実践・実践的研究を行う意欲と力量を育成し、向上し続ける教師、向上し続ける学校の形成を目指す。 いわゆる「科学的・実験的」研究とアクションリサーチとの差異を認識し、教師個々人が学級や教科で、あるいは学校全体で取り組む際の留意点等の理解を図る。		
受講対象者	各学校の研究主任、教科主任 など	募集人員	50 名
実施会場	独立行政法人 教員研修センター	所在地	茨城県つくば市立原 3 番地

< 講座内容 >

区分	日 程	テ ー マ と 担 当 講 師	研 修 方 法
第 1 日	8月21日(月) 12:30~14:30	アクションリサーチの勧め - アクションリサーチとは何か - 筑波大学大学院教授 大高 泉	講義・演習
	14:45~16:45	学習活動の改善を目指したアクションリサーチ - 発信をめざす英語活動・英語の事例 - 千葉大学教授 大井 恭子	講義・演習
第 2 日	8月22日(火) 9:30~11:30	指導法の改善を目指したアクションリサーチ - 算数・数学の事例を中心に - 筑波大学大学院助教授 清水 美憲	講義・演習
	12:30~14:30	教材改善・開発を目指したアクションリサーチ - 国語の事例 - 筑波大学大学院教授 桑原 隆	講義・演習
	14:45~16:45	授業実践研究としてのアクションリサーチの方法 東京学芸大学教授 浅沼 茂	講義・演習
第 3 日	8月23日(水) 9:30~11:30	指導法の改善を目指したアクションリサーチ 社会科の事例 筑波大学大学院教授 江口 勇治	講義・演習
	12:30~14:30	アクションリサーチによる学校臨床研究 - 不登校児を対象として - 千葉大学教授 保坂 亨	講義・演習

注 . 講座の最初と最後に簡単なセレモニーがあります。2/3以上の出席者には修了証をお渡します。

注 . 各講座のテーマや講座の順序については、多少の変更が生じることがあります。

[2] 調査研究について

千葉県長期研修生の研究報告の特色

昨年度作成したデータベースを基にして、特色を抽出する。

今日の学校が抱える教育課題・問題とその解決方法・研究方法

小・中学校教員を対象として、今日の学校が抱える教育課題・問題、それを解決するために取られる方法、研究方法について実態を解明する。

(小学校教員、中学校教員それぞれ100~200名、6~7月実施予定)

[3] 成果報告書の作成・配布

実施した研修講座における受講者アンケート、担当講師の意見、これまでに実施した調査研究を整理して、報告書を作成し、連携大学、連携教育委員会、千葉大学教育学部教職員等に配布し、今後の教員養成・教員研修に関する情報提供を行う。

5. 連携講座 「小学校の理科教育」の会場校として

本講座は、東京学芸大学が実施責任大学であるが、会場校を引き受けるとともに、講師を提供し、学芸大学と連携協力して実施する。なお、本講座は東京でも開催される。

テ ー マ	小学校の理科教育 (児童に感動を与える理科の指導)	実 施 期 間	平成18年 8月24日～8月25日
目 的	理科の指導を見直したい教師のために、小学校理科ABC領域に関する基礎的な観察・実験の技法を習得し、授業改善に生かす。		
受講対象者	小学校教員、盲・ろう・養護学校小学部教員	募集人員	千葉30名
実 施 会 場	千葉大学 所在地：263-8522千葉県千葉市稲毛区1-33		

【講座内容】

	日 程	テ ー マ と 担 当 講 師	研 修 方 法
第 1 日	18年8月24日(木) 9:00～12:30	ものづくりを活かした理科教育 力や音 を楽しむ(B区分) (千葉大学教授 東崎健一・ 同大学助教授 加藤轍也)	講義、演習、実習等
	18年8月24日(木) 13:30～17:00	身の回りの植物に着目した学習指導「花は 葉からつくられた」植物の知恵(A区分) (東京学芸大学教授 岡崎恵視)	同 上
第 2 日	18年8月25日(金) 9:00～12:30	食塩で科学する(B区分) (東京学芸大学教授 小川治雄)	同 上
	18年8月25日(金) 13:30～17:00	大地のつくりと変化を探る授業のポイン ト(C区分) (千葉大学教授 山崎良雄)	同 上